

今、日本のすべての人に、きっと、役割がある。

3.11ユースサミット

～震災時の子どもや若者の思いや心情を対話する～

■開催概要

- 日時 2022年12月17日(土)13時-16時30分
- 開催方法 オンライン(Zoom)開催
- 参加対象 東日本大震災の若者の声の関心ある方(50名・先着順)
- 参加費 無料
- 参加方法 URLもしくはQRコードからお申し込みください



URL: https://jpn-civil.net/2014/blog/2022/11/311_2023.html

■趣旨

災害時、子どもが考えていたことや感じていたことをどこまで知っていますか。
2019年度より開催した3.11ユースダイアログでは、若者から多くのことが語られました。
3.11ユースサミットでは語られた言葉から、今、私たちが考えるべきテーマについて、
若者と一緒に対話します。



- ・「本音や不安を語れる人や場所が欲しかった」
- ・「子どもの意志はどう尊重されるのがよいのか」
- ・「同じ災害を経験した者同士どうして格差や分断が生まれるのか」
- ・「大人が考える復興、子どもが考える復興とは」・・・など

■登壇者

東日本大震災を経験された若者8名、中越地震を子どもの頃に経験された方、阪神・淡路大地震を経験された方1名が登壇します(詳細は裏面)

■内容

1. 開会:開会挨拶/趣旨説明
2. 【1部】テーマについて登壇者同士の対話
3. 【2部】テーマについて参加者と登壇者の対話
4. 【3部】登壇者からのメッセージ
5. 閉会:総括/閉会挨拶

■登壇者プロフィール

(五十音順)

阿部 愛さん

宮城県石巻市渡波地区出身、在住。発災時は幼稚園年長（6歳）。幼稚園の親しい友人を亡くし、「友人の分まで生きてほしい」という友人の祖母からの言葉で、自分を鼓舞して生活してきた。クラーク記念国際高等学校で幼児教育やパフォーマンスを学ぶ高校3年生。

志賀 風夏さん

川内村出身。東日本大震災時は相馬高校1年生。原発事故による県外への避難経験もある。現在は村に戻り、陶芸家/草野心平記念館管理人として村に関する様々な活動を行っている。今年の秋からコミュニティカフェ秋風舎をオープンさせ運営している。

江刺 逸生さん

岩手県大船渡市出身。東日本大震災発生時は、地元の中学校に通っていた。自宅は津波到達地点から数百メートル離れた場所に位置し、ぎりぎりのところで浸水を免れた。地元の高校に進学し卒業した後は、心理学を学ぶために県外の大学へと進んだ。現在は千葉県松戸市在住であり、公認/臨床心理師として病院に勤務している。

清水 葉月さん

福島県浪江町出身。高校2年生の時に東日本大震災を経験し、関東へ避難。その後、宮城県女川町・石巻市で放課後の学習支援や子どもの声で運営する児童館の職員など子ども支援に携わる。現在は(一社)Smart Supply Visionで子ども・若者の声を届けるファシリテーターとして活動。震災を語る若者たちのコミュニティの場づくりも行っている。

香月 昂飛さん

1993年生、宮城県石巻市出身。高校2年生時、3.11により被災し震災孤児に。翌年、消防士を拝命。現在は教育系IT企業にて、ICT支援員等に従事。今回は孤児であった目線から被災後のサポート体制や復興について考えていけたらと思います。被災時の手記はこちら「<https://onl.bz/SfXamvy>」

田中 彩貴さん

中越地震の発災時は小学校6年生。長岡市の自宅で震度6弱の揺れに見舞われる。地震直後は数日車中泊をしてから小学校で避難所生活を送る。現在はローカルタレントとして活動し、中越防災安全推進機構のスタッフとしても当時の様子を振り返りながら防災について伝えている。

高橋 未宇さん

現在23歳。岩手県陸前高田市出身、在住。生まれつきの脳性麻痺による車いすユーザー。当時は小学校5年生。震災から1週間後、盛岡市へ移り、4年間を過ごす。高校入学と同時に帰郷し、現在は福祉施設で働く傍ら、福祉×防災の視点で研究、語り部や研修講師等として発信をしている。

中村 翼さん

1995年1月17日神戸市兵庫区生まれ。27歳。阪神淡路大震災が発生した午前5時46分の約12時間後の午後6時21分 三宮の上田病院にて誕生。神戸市立明親小学校入学後、小学5年生の時に父親の転勤により岐阜県へ移住し、中学3年生まで過ごし、再び神戸へ。神戸市立須佐野中学校卒業後、県立神戸北高校から神戸学院大学に進学し、現在に至る。現在は、兵庫県内で会社員として過ごす。

佐藤 勇樹さん

富岡町3.11を語る会語り人。福島市在住。小学5年生の時に富岡町で被災、原発事故によって県外への避難も経験した。福島大学の学生であった一昨年から語り部としての活動を始め、現在は仕事をしながら語り部の活動をしている。

武藤 礼司さん

福島県富岡町で小学校3年生の時に被災。福島原発事故の影響により、全町避難となった富岡町から家族とともに佐賀県に避難。高校までを佐賀で過ごし、大学進学と同時に福島市に移り、福島大学で地域づくり学んでいる大学3年生。

■お問合せ先

東日本大震災支援全国ネットワーク 事務局

Mail:office@jpn-civil.net